愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

朝日遺跡

2010

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡発掘調査報告

調査の経過　朝日遺跡は、清須市と名古屋市西区が接する都市部北西に位置する。調査は清洲ＪＣＴ内水路切廻しに伴う事前調査として、国土交通省愛知国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査面積は130㎡である。調査区は平成11年度から採用している４分割（南北方向は国道22号、東西方向は国道302号を基準とする）に準拠し、09Ａ区とした。

調査区の現況は水路であった。まず水路を撤去し、その後調査を進めることになった。ところが、水路を撤去する作業が進行するにつれ、現況の水路に伴う基盤整備のため、遺跡の大部分が削平されていることが判明した。

調査の成果　発掘調査は、11月２日～12日まで行い、引き続き水路の設置工事が進められた。したがって、調査は水路撤去工事の立ち会いを含めて２週間程度であった。

調査の成果は、隣接する既調査区の成果より、あらかじめ予想されていた。99Ae区が北接した調査区として最も近く、ここからほぼ東西方向に延びる溝SD03が確認されている（蔭山ほか2007）。また、今回の調査区に東接する愛知県教育委員会による第２次調査（加藤ほか1982）第77区がある。第77区は溝が東西方向に数条が確認されている。これらのうち、今回の09Ａ区につながる溝は位置関係からSD375を予想した。このように周辺の既調査区の成果から、北区画（北居住域）の中期第２環濠（中期外環濠）が09A区を東西に縦断すると想定した。

調査の結果、さきに示した通り既設の水路が、遺跡の基盤層である朝日Ｂ層（赤塚ほか2009）を削平していたので、湧水がおびただしく遺構の確認は期待できなかった。ところが、調査区を囲むシートパイル付近を精査すると、北側に遺物を含む黒色土が確認された。確認した範囲は幅50㎝前後長さ15m前後であった。調査の所見から、北側への落ち込みが認められたので、溝001SDである可能性を指摘しておく。出土遺物は、弥生時代中期の土器、朝日式から貝田町式と高蔵式を中心に、一部後期の土器を含む。土器以外にイノシシの下顎骨を含む動物骨が出土した。石器は数点の剥片のみであった。

総　　括　09Ａ区は調査区を東西方向に縦走する001SDが１条確認された。隣接する既調査区の成果から北区画中期第２環濠であることはほぼまちがいない。001SDはさらに西方へ続くと考えられ、61A区SX01につながる可能性が高い。SX01は逆茂木を含む溝で、総延長60m以上になる逆茂木列SX02と並行する溝となる。残念ながら、今回の001SDから逆茂木を確定できる木質の出土はなかった。ただし、001SDの存在によって東西にのびる溝をほぼ確定できたといえよう。

（永井宏幸）

（参考文献）
赤塚次郎ほか　2009　『朝日遺跡Ⅷ』
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
第154集

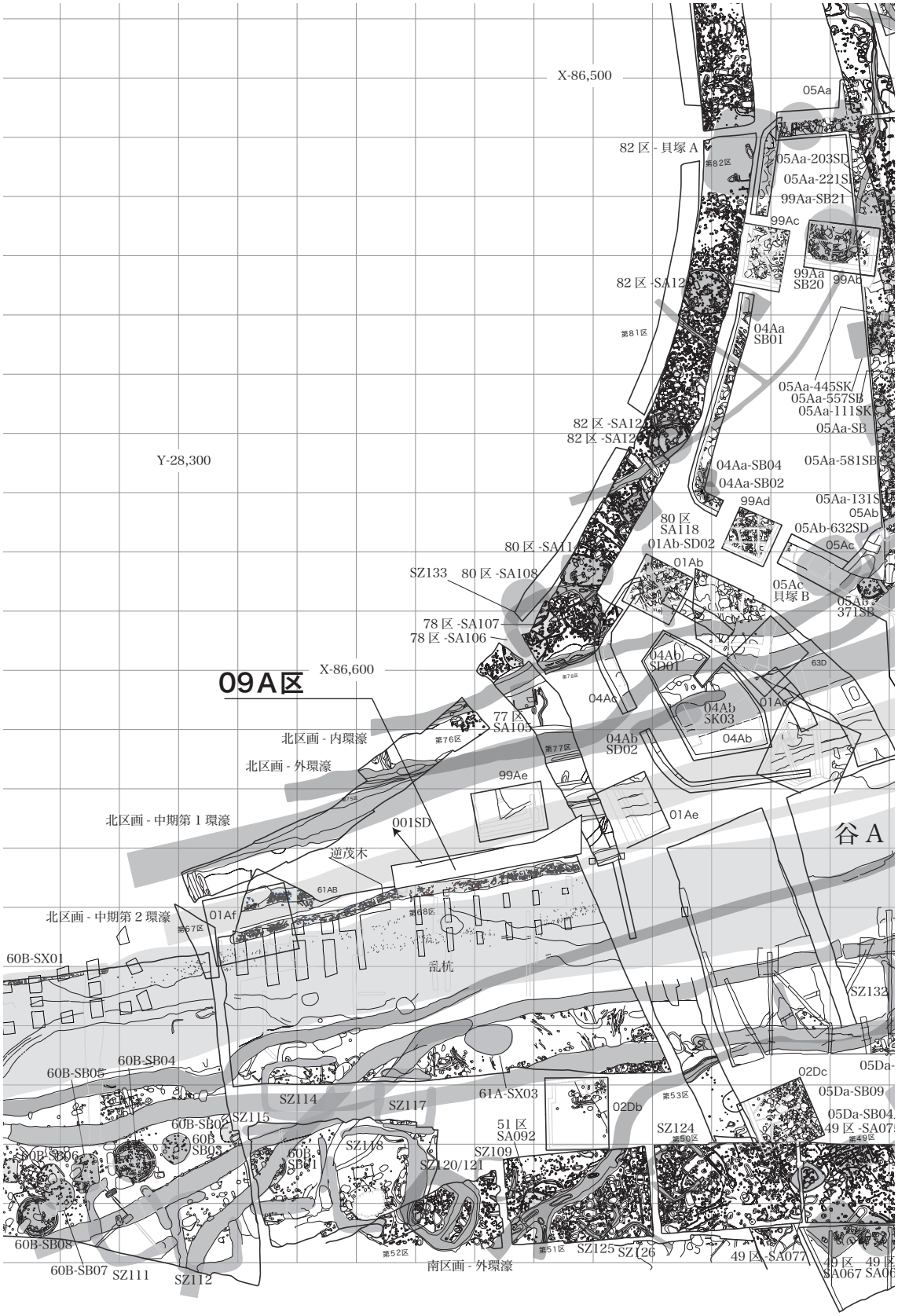
朝日遺跡の位置（１/2.5万「清洲」）

朝日遺跡09A 調査区全体図（1:200）

調査区全景（東から）

09A001SD 完掘状況（南東から）

発掘作業の状況



朝日遺跡1AS09A調査区位置図 (1:1000)

抄　録

ふりがな	あさひいせき
書　　名	朝日遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	永井宏幸
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あさひいせき 朝日遺跡	あいちけんきよすし 愛知県清須市 あさひ 朝日	23233	210001	35度 13分 16秒	136度 51分 16秒	2009.11.	130	清洲ＪＴＣ内 水路切廻し

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝日遺跡	集落跡	弥生時代	溝	土器・動物骨	北区画を囲む中期第２環濠の一部を確認。

文書番号	発掘届出(21埋セ第65号 2009.9.18) 通知(21教生第1398号 2009.9.30) 終了届・保管証・発見届(21埋セ第86号 2009.11.26) 鑑査結果通知(21教生第2171号 2010.1.20)

要　　約	今回の調査は、朝日遺跡北区画を囲む中期第２環濠の一部を確認したことにある。中期第２環濠は、南にある逆茂木を有する溝が並行する位置関係にある。今回の調査区では既設の水路による削平が著しかったが、西方向にのびる溝がほぼ確定できた。したがって、西方に存在する逆茂木を有する溝につながる可能性が高くなった。そうすると、北区画の逆茂木は２条並行して総延長60m以上続く景観が想定される。